

知見の囲炉裏端

いろいろばた 観望庵 Vol.18



高島 秀行



近隣の二国、中国と韓国は、コロナ同様全くたちが悪い。ヘイトスピーチとしないために敢えて固有名詞で言えば、習近平主席と韓国文(ムン・)在寅(ジェイン)大統領が「約束を守らない」のは容認できない。いかに国として善行や良い人達が多くても、宜しくない。これを、持論として真向非難しているのは、前者はトランプ、後者はサンケイ位だ。

習近平は大中華帝国を目指して世界覇権を狙う。一九七五年から少なくとも五十年間は一国二制度を約束したにも関わらず、突然一国一制度と言って憚らない。香港人の悲鳴も何のその、自由主義諸国がいかに反対しても、馬耳東風である。自由と民主主義を認めず、合法的に逮捕し中国に送還するという。香港選挙と言っても、反中国的人材は立候補を取り消せるのだからいわんやである。既に、同種の事はチベット、ウルガイで実証済みである。台湾の危機感も増すばかりであろう。

偉人李登輝が亡くなくても、弔意もない。むしろ蔑視声明である。対米関係の少々の悪化も、憲法改正により習近平の方がトランプより寿命を長くしたから、慌てることではないのであろう。

南シナ海への布石が終わり、次は尖閣を含む東シナ海制覇のチャンスを窺っていることは間違いない。アフリカなどの小国へも、経済性を度外視して盛んに投資し、着実に国連での味方を増やしている。国連の決議は、アメリカもウガンダも等しく一票である。将来何が起こるか分からない。今の中国は、既に、古き良き論語の国ではない。現代版「焚書坑儒」が始まっている、恐ろしき一帯一路戦略、まさに国家百年の計である。